

平成 31 年 度
前 期 日 程
英 語 問 題

〔注 意〕

1. 問題冊子及び解答用冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号は、解答用紙の受験番号欄(各ページ2か所)に正確に記入すること。
3. 問題冊子のページ数は、表紙を除き9ページである。脱落している場合は直ちに申し出ること。
4. 解答用紙は3枚である。解答用紙をミシン目に従って切り離すこと。
5. 解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。枠からはみ出してはいけない。
6. 問題冊子の余白は、適宜下書きに使用してよい。
7. 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
8. 問題冊子は持ち帰ること。

平成31年度個別学力検査等

問 題 訂 正

【 前期日程 英語（F） 】

問題冊子 8 ページ 上から 7 行目

（誤）「・・・仕事も来るようになった。」

（正）「・・・仕事もくるようになった。」

I 次の英文(A)と(B)を読み、それぞれの下線部の意味を日本語で表しなさい。

(A) In December 1877, Thomas Edison made history by recording 'Mary Had a Little Lamb' on his phonograph and playing it back. This was not just 'an epoch in the history of science', it was a revolution for the human voice. Before then, hearing someone talk was exclusively a live experience: you had to be listening as the sounds emerged from the speaker's mouth. We can read the text of great speeches that predate the phonograph, like Abraham Lincoln's Gettysburg Address, but how exactly the president delivered the lines is lost forever. The phonograph captured the way things are said, and this can be just as important as the words themselves. When someone says 'I'm all right', the tone of their voice might in fact tell you they are *not* all right.
(Copyright ©2018 by Trevor Cox, from Now You're Talking. Reprinted by permission of Counterpoint Press.)

(B)

(この部分につきましては、著作権の関係により公開しません。)

Ⅱ 次の英文を読んで、以下の設問に答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により公開しません。)

（この部分につきましては、著作権の関係により公開しません。）

(この部分につきましては、著作権の関係により公開しません。)

（この部分につきましては、著作権の関係により公開しません。）

設問(1) 下線部①の内容を本文に即して、わかりやすく日本語で説明しなさい。

設問(2) 下線部②の意味を日本語で表しなさい。

設問(3) 下線部③の内容とその理由を、わかりやすく日本語で説明しなさい。

設問(4) 下線部④で述べられている peeler は、なぜ受け入れられたか、その理由を日本語で説明しなさい。

設問(5) 下線部⑤の内容を本文に即して、わかりやすく日本語で説明しなさい。

設問(6) 下線部⑥の意味を日本語で表しなさい。

設問(7) 下線部⑦の内容について、この段落ではどのような具体例が挙げられているか、わかりやすく日本語で説明しなさい。

Ⅲ 「何事もあきらめが肝心」と言われますが、一方で、「あきらめなければ、必ず道は開ける」という言葉もあります。あなたの考えはどちらに近いですか。あなたの過去の経験を1つ挙げて、70語程度の英文で述べなさい。

Ⅳ 次の日本文の下線部(1)～(3)の意味を英語で表しなさい。

NHK という大組織の中にいても、私はその頃から孤独を楽しんでいた。

他の女性たちはというと、誘い合ってお茶を飲んだりご飯を食べに行ったり……。

私はほとんど参加しなかった。つき合いが悪いと思われそうで、最初のうちは一
(1) 緒に行っていたが、人の噂話ばかりで全く無駄な時間だと思えたからである。

そのうちに、私がスタジオで何か書いていることに気づいたディレクターが、外部のライターに出していた仕事を、そんなに好きならやってみたらと回してくれたので、番組の台本書きの仕事も来るようになった。

多少つき合いは悪かったかもしれないが、そんな私を認めてくれる人もいた。

普通の会社であっても空き時間の使いようで、一人の時間を確保することはでき
(2) る。それが仕事への反省ややる気につながり、将来への夢を育ててくれる。

現在の仕事に全力をそそぐのはもちろんだが、その中でも空き時間を一人で考えることに使っていると、必ず将来につながる。

私の場合、ともかく物書きになりたいという夢があったので、空き時間はすすんでそのために使った。それが他人の目に留まり、「夢のハーモニー」*のための詩や物語を書くことが出来、あれは誰の作品？ と反響があると嬉しかった。それを続
(3) けているうちに、ある出版社から「面白いから本にしないか」という話が持ち込まれ、第一作が生まれたのだ。

(下重暁子『極上の孤独』)

注 *著者がかつて関わった NHK のラジオ番組

V これから英語が2回読まれます。その内容について、以下の設問に日本語で答えなさい。

設問(1) 着装可能な最初のメガネは、いつ、どこで誕生し、主としてどのような人々によって使用されましたか。

設問(2) ベンジャミン・フランクリンはどのようなメガネを、どのようにして作りましたか。

設問(3) “Scissor spectacles”とはどのようなもので、なぜ考案されましたか。

設問(4) 産業革命は、メガネにどのような変化をもたらしましたか。

設問(5) 最初のサングラスは、いつ、どこで、どのような目的のために考案されましたか。